

<第三種郵便物認可>

日台「善の循環」心通う友好

「まさかの時の友こそ真の友」

これは台湾と日本の関係を言い表すのにピッタリの言葉といえる。台湾と日本は歴史的に古く、より密接な友好関係が築かれていく。特に災害が発生した際に互いに助け合う関係が形成されており、私はこれを「善の循環」と呼んでいる。10年前の3月11日、東日本大震災が発生した際、台湾の人々はテレビに映る想像を絶する光景に大きなショックを受け、日本の大変な状況にいても立ってはいられない気持ちになった。そのとき、台湾の人々の心

台北駐日経済文化代表処代表 謝長廷氏（寄稿）

に浮かんだのは、台湾中部で1999年、921大地震（台湾中部大地震）が発生した際、日本のレスキュー隊が真っ先に駆けつけ、台湾の被災者を助けてくれた記憶だった。



「今度は台湾が日本に恩返しする番だ」と、台湾の各界が募金活動を始めた。私も当時、所属する政党やロータリークラブなどで募金活動を行い、日本が速やかに復旧できるよう深く祈

った。

2014年に台湾南部の高雄で大規模なガス爆発事故が発生した際、今度は日本から次々と温かい支援の手が寄せられた。私が16年に駐日代表に着任した際、まず初めの公務は、熊本地震の被災地に台湾からの義援金を届けることだった。ここ5年間に、台湾では台南と花蓮、日本では熊本と北海道が震災に見舞われ、そのほか西日本水害や九州北部水害もあった。そのたびに台日間では官民間わず

助け合いが行われ、物質的な支援のみならず精神面でも励まし合う関係に発展した。

台日双方の人々は、いわば家族や親戚のような連帯感があり、何かあったときは心配でたまらず、できる限りのことをしてあげたいという気持ちを抱いている。世界を見ると近隣の関係は険悪になりがちだが、台日間は例外で、自然な気持ちで友情が築かれている。これは世界平和の模範となる大切な財産であり、今後も「善の循環」による心が通う友好関係を発展させていきたい。